

2001年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、ヨーロッパ北部からロシア西部にかけて、日本北部からオホーツク海、カナダ西岸、大西洋中部、北極で負偏差、中央シベリアからモンゴル、アラスカ、太平洋中部、カナダ東部、ヨーロッパ西部からアフリカ北西部、グリーンランドで正偏差となった。5日平均図を見ると、中央シベリア、ベーリング海からアラスカ、ヨーロッパの北西ではブロッキング高気圧がしばしば見られた。

対流活動はインド、インドシナ半島からフィリピン、インドネシア付近から西部太平洋赤道域で平年よりも活発だった。中部太平洋の赤道付近では平年よりも不活発であったが、その北側にある熱帯収束帯の対流活動は太平洋全域で平年よりも活発であった。今月のアジアモンスーンは平年よりもかなり活発で対流活発域は平年よりやや西よりだった。200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、ベンガル湾や南シナ海に見られる大規模発散の中心は平年に比べてやや西に位置した。日本の南東には高気圧性偏差循環の中心があり、北日本を除く日本付近はこの偏差循環の中にあっ

た。SOI (南方振動指数) は+0.3となり、弱いながら正の値 (貿易風が平年より強いことに対応) に転じた。

世界の天候

① 西シベリアから中央シベリアの多雨

② 中央シベリアから中国の高温

中央シベリアから中国、中央アジア南部など広い範囲で異常高温となった。

③ 中国中部の少雨

中国では干ばつにより2200万人が水不足の影響を受けていると報じられた。

④ 華南の低温

⑤ ヨーロッパ南西部の少雨

⑥ スペインからモロッコの高温

⑦ トルコからシリアの高温

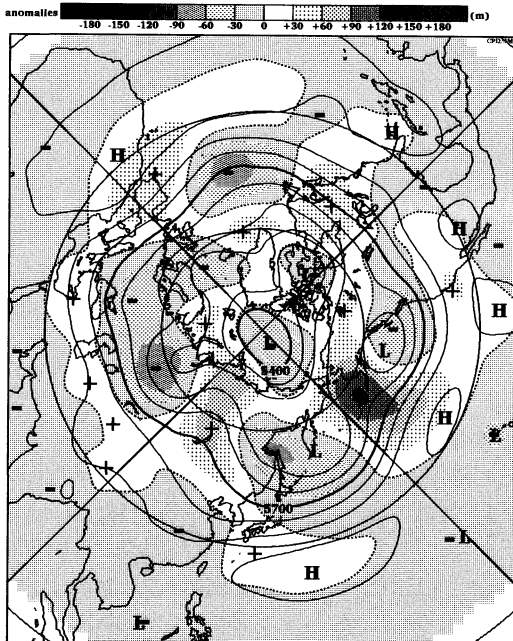
⑧ カリブ海周辺の高温・少雨

月平均気温はカナダ西部から米国南東部で低かったほかは高いところが多く、カリブ海周辺では異常高温となった。

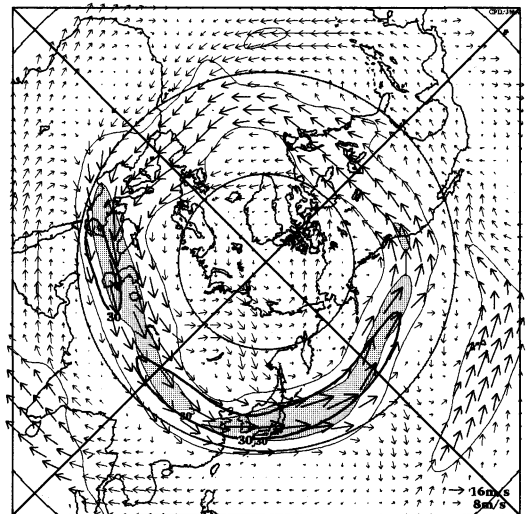
⑨ オーストラリア東部からニュージーランドの少雨

オーストラリア南東部や南西部では、干ばつにより小麦などに影響が出ていると伝えられた。

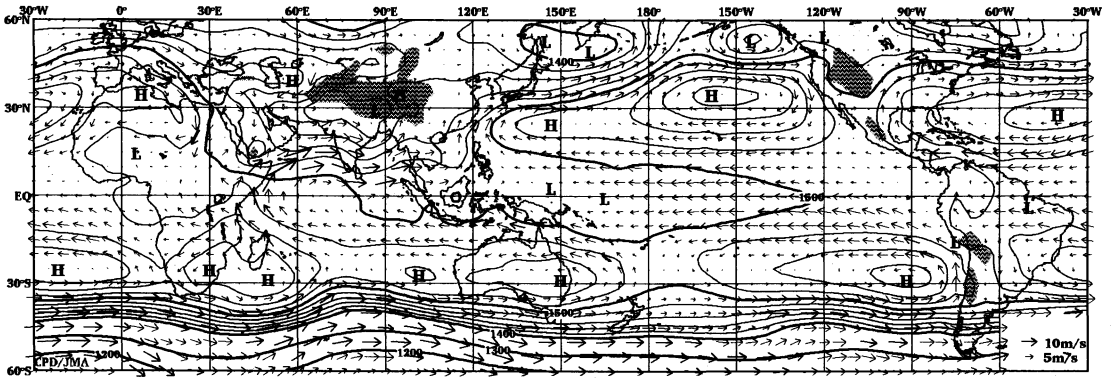
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 八木昌代)



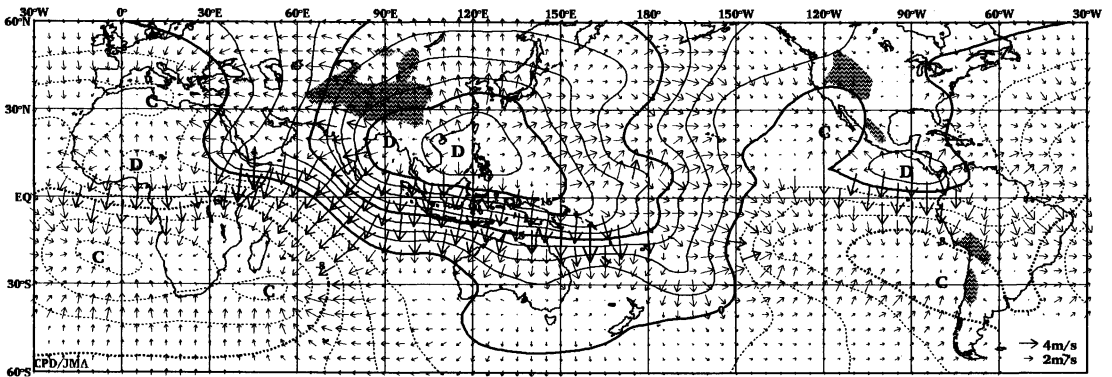
2001年6月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



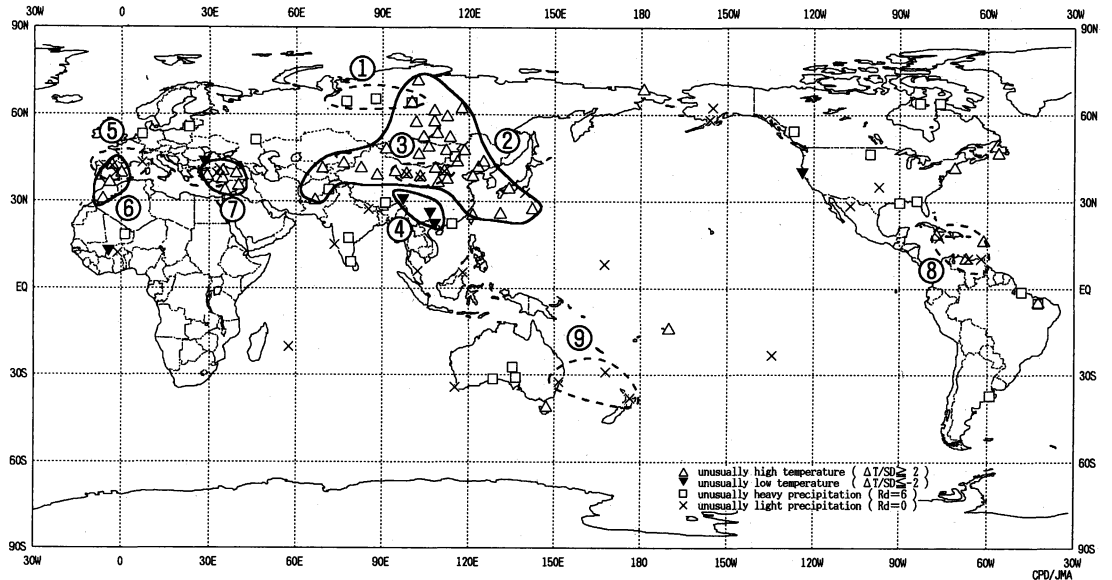
2001年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は平年で30 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2001年6月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2001年6月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2001年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.